

令和三年十二月十五日

清魂せいこんの儀

神 示

「教え」を家族で学び

「真理」に触れるほど

人間人間の心は高く実体なる

この思いを遂げるため

祈願の対象として 分魂を神は表している

迎える年の姿実体を知って 信者は「教え」を心人生の支えに生きるべし

この思いが 信者が歩む年今年を 「正道」へと導き守る

一年の歩みが 信者の人生を磨き 悟り心こころを深めてゆく

信者に申す

人生を支える軸が見えずに 知識 体験が錯綜さくそうし 混迷する

「信者の道」を歩むところに 「心」安定し

「真理」を軸に「人生」を進めてゆける

よって 「真理」に生きる祈願が必要

欠いてはならない悟りが ここにある

社会は ますます「真理」を求める

なれど 正誤の姿真実が見えずに迷う

信者は 「教え」に生きて ますます「人生の正道」をゆく

人生の明と暗を分けるものは 「真理」に悟りを深める心にある

「教え」を学び 「真理」に重なる心を 神神魂に願い求めて祈願する

分魂が 信者の願いを神魂へとつなぐ